

田屋遺跡第2次発掘調査現場説明会資料

— 県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う発掘調査 —



公益財団法人
和歌山県文化財センター
和歌山市岩橋 1263 番地の 1
TEL: 073-427-3710
FAX: 073-474-2270

●はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山県（海草振興局建設部）から委託を受けて、県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴い田屋遺跡第2次発掘調査を平成29年2月から約2,000㎡を対象として実施しています。



●田屋遺跡とは

紀ノ川右岸の沖積平野氾濫原に所在する弥生時代後期から古墳時代を中心とした集落遺跡です。一般国道24号建設事業に伴い発見された遺跡で、1980年代に実施された発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴建物や古墳時代中期から中世までの掘立柱建物、自然流路などが発見されました。また、陶質土器や韓式系土器の出土も確認され、朝鮮半島との密接な関係も推測されています。その後の発掘調査でも多くの竪穴建物や掘立柱建物が発見され、県内でも屈指の弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡として著名な遺跡です。

●今回の発掘調査の成果

今回の発掘調査では、自然流路の間に位置する微高地を検出し、その微高地上で古墳時代前期から後期の竪穴建物 11 棟以上のほか、流路、土坑やピット等を多数確認しました。

竪穴建物は一辺約 3.0 ～ 6.0m で、平面形は方形を呈しています。その多くが後世の削平を受けたためか、深さは深いもので 0.5m 程度しか残っていません。竪穴建物内には、造り付けカマドや柱穴、貯蔵穴、小溝、炉状の遺構などが検出されたものもあり、中にはカマドに据え付けられた土器が残された状態で発見されたものもあります。さらに、焼失の痕跡が残る竪穴建物も 1 棟検出しており、竪穴建物の屋根組の一端が推測できるなど貴重な成果を得ることができました。

また、流路は幅約 0.3 ～ 1.0m 程度で、深いものでは深さ 1.0m 程度残存していました。おおむねそれぞれ直行する方向に向かって流れており、計画的に配置されたことが伺われます。

出土遺物は、甑や鍋、高坏などの土師器、坏蓋身や高坏、甕などの須恵器、製塩土器、土錘、鉄滓などが出土しており、こうした出土遺物等から、各遺構の時期は古墳時代前期から後期にあたることがわかっています。



竪穴建物② 柱穴内出土土器



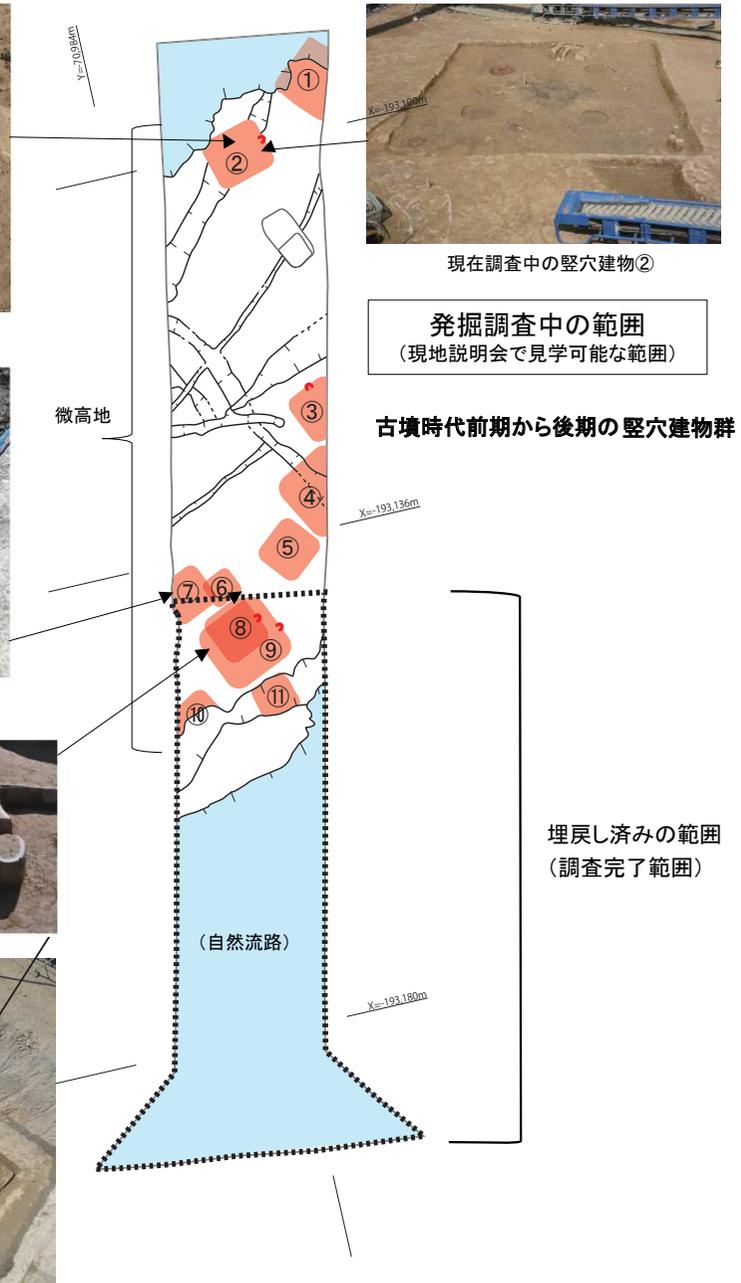
焼失の痕跡が残る竪穴建物⑦



想定されるカマド



竪穴建物⑧・⑨全景とカマド



現在調査中の竪穴建物②

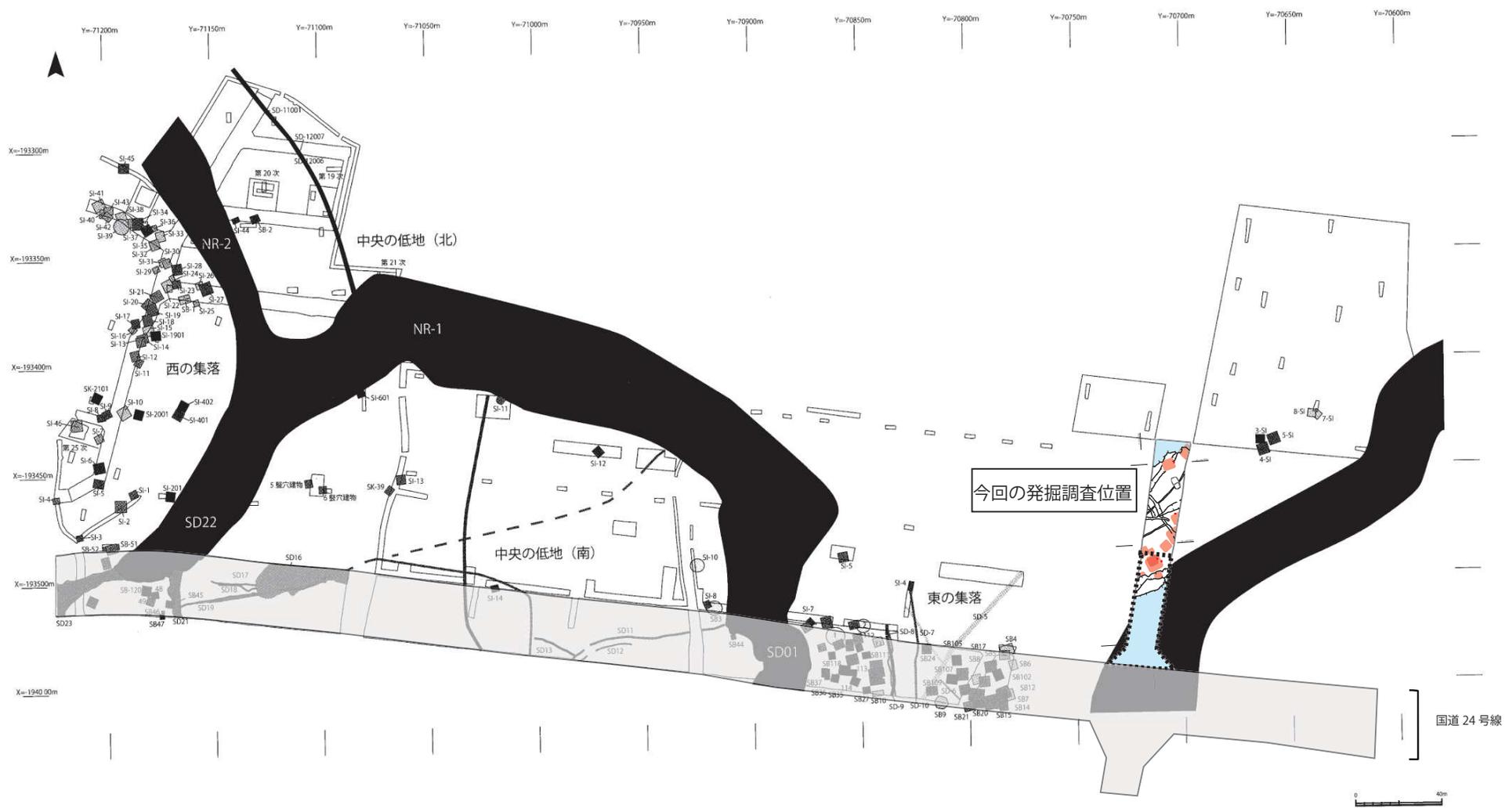
発掘調査中の範囲
(現地説明会で見学可能な範囲)

古墳時代前期から後期の竪穴建物群

埋戻し済みの範囲
(調査完了範囲)

竪穴建物など検出遺構の模式図

(想定されるカマド写真は和歌山県立紀伊風土記の丘 2004『特別展 火—人と火の関わりを探る—展示図録』より引用)



田屋遺跡遺構配置模式図

((公財) 和歌山市文化スポーツ振興財団編 2017 『田屋遺跡第 18 次発掘調査報告書』 一部改変)